庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ モッコク ～

日本樹木医会富山県支部
樹木医　**西 村 正 史**

2021年５月頃、移植したモッコクが枯れるかもしれないとの相談がありました。モッコクの移植はやや難しいと言われているので、そうかもしれないとの思いを持ちながら６月に関係者の方と一緒に現地へ見に行きました。その結果、新芽が発生していたので枯れる心配はないことがわかり、安堵しました。

そこで、今回はモッコクを紹介します。

１ 特 徴

モッコクは、ツバキ科モッコク属の常緑広葉樹です（写真１）。日本では千葉県以西の本州沿岸部、四国、九州、南西諸島に分布し、外国では朝鮮半島南部、台湾、中国を経て東南アジアからインドに至る暖地の海岸近くに分布しています。暑さには強いが、寒さには弱いため、県内での植栽は平野部に限定されています。

放任しても樹形が整えやすいこと、樹齢を経るに従って風格が出ることから、「庭木の王」とされています。高さが５～15mにもなる大きな木なので、狭い庭ではなく、より広い庭での植栽に適しています。

常緑なので一年中綺麗な葉を楽しむことができ、初夏には白い花を咲かせ（写真１）、秋には赤い実がなるすぐれものです。耐陰性があり日陰でも育つ丈夫な木です。

２ 維持管理

春になると新しい枝が前年の枝の先端から数本まとまって発生し、６～７月頃になると密生してくるので、風通しを良くするため、この時期に新しい枝を２～３本残してその他の枝はすべて元から切りとります。

残した枝が長くて葉が多ければ葉を２～３枚残して切ります。秋になっても密生しているようであれば、同じ管理をします。モッコクの成長は緩慢であるので、この管理を間違えれば樹形の変形や樹勢の衰退に直結しますので、専門業者さんに依頼された方がよいと思います。

写真１　富山県中央植物園内のモッコク
左：全景 右：今年発生した枝と花 2021.7.13

よく発生する病害虫はハマキムシとカイガラムシです。前者は幼虫が葉を数枚綴り合わせてその中で葉肉を食害します。多発することは少ないようですが、美観が損なわれます。後者はカイガラムシが口を植物に突き刺して吸汁するので、多発すると枝が枯れる心配があります。カイガラムシが多発すると二次的にすす病が発生し葉の表面が黒くなるので著しく美観を損なうことになります。両者とも浸透移行性殺虫剤を散布して対応してください。

今回相談のあったモッコクは、移植のため2017年秋に根回しをされ、その翌年に移植することにしていましたが、発根が少なかったので１年遅らせて、2019年４月に移植されました。

2021年の春になると旧葉の落下が始まり、５月に入ると著しくなり、新芽の発生も見られず、枯れるのではないかと心配されました。ところが、2021年６月２日の時点では新葉が樹冠全体に発生していました（写真２）。

これは、移植後の年数が２年以内のため発根量がまだ十分ではなく、旧葉の落下が早まるとともに新芽の発生が遅くなり、その結果として「枯れたのではないか」と心配されたのではと思います。

今回の事例から、移植は数年以上かけて慎重に根回しすることの大切さが示唆されました。

写真２　枯れると心配されたモッコク
2021.6.2